猿新聞

編集・発行
山村　準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

増えるイノシシ個体調整

有害鳥獣による農作物の被害が増えてきた理由は諸説ありますが、個体数が増過ぎたことが一番にあげられます。

ドングリなどを主食にするイノシシは本来、人里に比較的近い山野で生息していますが、集落に頻繁に現れるようになったのは単純に考えて、個体数が増え、生息密度が高くなったのが原因と考えられます。

現段階で対策を考えるときイノシシ、シカの個体数は過多と判断し、防御ではなく、駆除に転換すべき時期であると思います。だが、「害獣は殺してしまえ」という安易な考えは絶対に許されません。50年程前までは猪や鹿は「山からの贈りもの」として貴重なタンパク源で、食べるだけでなく毛皮も大事に使っていて、人が生きていくための必要に駆られた捕獲で、であったと思います。

駆除にには、各人各様に葛藤があると思いますが、増えすぎた生息数をその環境に対応した適正数にする駆除活動は必要と考えます。生息数を環境に対応した数に減らすのは長い目で見れば野生動物の保護にもつながります。今後は、適正数値になれば防御、過少になれば保護という、きめの細かい手段も考えていかなければならないとも思います。

イノシシ捕獲の実態

右の表は、平成25年4月13日から平成26年10月31日までの有害による捕獲頭数です。矢川区の捕獲数は名張市全体に含まれています。

名張市全体での有害捕獲数

平成25年4月13日～平成26年10月31日(通算)			
獣種	性別	捕獲頭数	合計
シカ	オス	233	539
	メス	306	
イノシシ	オス	71	138
	メス	67	
総合計			677

矢川区内での有害捕獲数

平成25年4月13日～平成26年10月31日(通算)			
獣種	性別	捕獲頭数	合計
シカ	オス	1	3
	メス	2	
イノシシ	オス	2	3
	メス	1	
総合計			6

平成22年度の三重県の統計によると、狩猟捕獲頭数に比べ名張市では約5倍、伊賀市では約3倍に及んでいます。森林面積の差があるとはいえ、名張市の捕獲数は伊賀市に比べ極端に少ないように思います。（左表参照）

近頃、耕作放棄地が拡大していますが。その原因の一つに、イノシシの増加が考えられています。平成13年から22年の10年間で新たに1，359ヘクタールが耕作放棄地になっています。（三重県特定鳥獣保護管理計画）

イノシシは、繁殖率が非常に高く、毎年増加する個体数すら捕獲できない現状では、中山間地域は作放棄地拡大が、獣害の拡大に繋がるという、負の連鎖に歯止めがかかりません。

平成22年度イノシシ捕獲数

	狩猟	有害	合計
伊賀管内	1，409	496	1，905
名張市	177	32	209
伊賀市	1，232	464	1，696

耕作放棄地（矢川）
2反ほどの田んぼが荒れ果ててイノシシの餌場になっています。ミミズを探しに夜な夜な出てきて掘り返しています。
このまま放置していると掘り返しの被害が広がっていきます。

イノシシ一口メモ

イノシシは、非常に神経質で警戒心の強い動物です。

普段より見慣れないものなどを見かけると、それを避けようとする習性があり、通り慣れた「けもの道」でも、ちょっとした異変があると、恐くて通れなくなるくらい恐がりだそうです。

だからイノシシの通り道を、人間が踏み荒らすとか、通り道に棒の１本でも立てて異変を起こしてやるとビビッて近寄らなくなるそうです。

個体数増大は人も獣も困る

個体数が増えれば、今までいなかった地域にまで進出し農地を荒らすようになり、また、市街地にまで出てきて街の生活基盤に影響が及ぶ恐れも考えなければなりません。

さらに、人身事故につながる可能性も排除できません。

一方、野生動物は？。

行動域での生息数過多は野生動物を死に追いやります。また、農作物や市街地のゴミ等に依存している動物も、これが常習化していくと、野生での生きる術を失い、奈良公園のシカのように人に依存しなくては生きていけなくなってしまいます。

両者の問題を解決するには、色々議論がありますが個体調整以外、手だてがないのが否めない実情です。

個体調整は長い目で見て野生動物の保護にも繋がると考えられます。

尚、狩猟による捕獲数は不明です。（名張市農林資源質調べ）

女性猟師

近頃、タクシーや、バス、に乗ると女の運手さんをよく見かけますが、最近では狩猟界にも女性猟師さんが増加してきているそうです。

名張市猟友会にも２人ほど若い女性猟師さんがおられます。

先日の「とりたて名張」の「ジビエ」料理の振る舞いコーナーでも紅一点活躍されておられました。（写真＝シカを解体する女猟師さん）

ヒガンバナ植栽 畦畔を護る

ヒガンバナやスイセンの植栽は、イノシシの掘り返しによる畦畔・法面の崩壊を防ぐ効果が高いといわれています。

ヒガンバナやスイセンには、球根に毒素があるためイノシシの好物のミズが発生しにくいためだといわれています。

農地の餌場価値を低減するためには、稲刈り後直ちに耕耘し、ヒコバエなどのエサ資源を無くすことが大事です。

サルの出没状況

名張A・B群

指南員報告

11月のサルの動向

A群は、全遊動域を、B群は、国道165号線の南側を、遊動し、各地の畑作を採食しています。

また、稲の刈り取り後のひこばえの穂を採食するのを目撃しています。

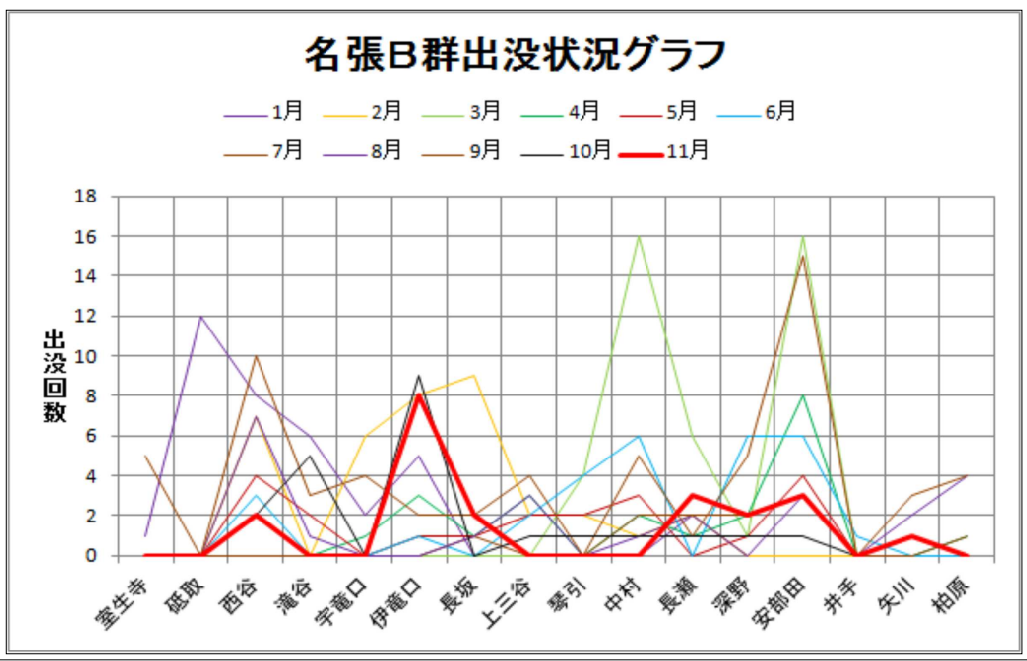
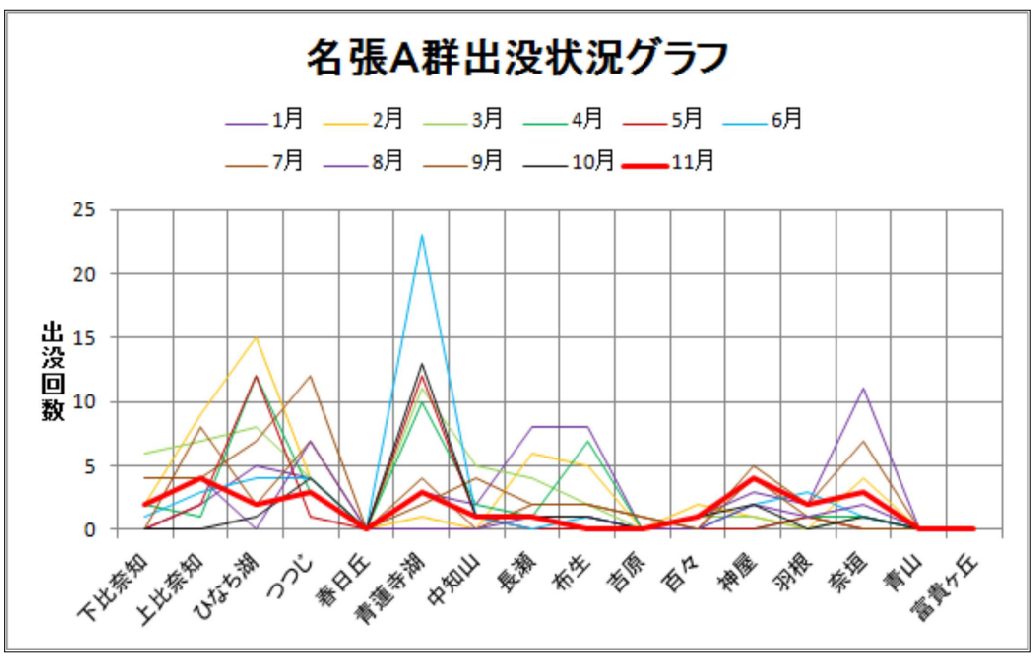
両群共、交尾期をむかえ、顔や尻の赤みが増しています。交尾も何回か確認しています。

A群の遊動域でよく目撃される3頭のハナレザルですが、「親子」とのうわさを耳にしますが、群れから離脱しハナレザルとなる個体は、オスです。3頭共オスであることを確認しましたので報告します。

B群エリアでは、一頭の大きなハナレザルが徘徊しています。

くれぐれも注意をお願いします。

名張B群出没状況グラフ



名張A群出没状況グラフ